

関電は大飯・高浜再稼働をあきらめよ 福井地裁判決を受け入れよ

川内原発2号機再稼働は無謀



「原発は人を殺して金儲け」の看板?—脱原発川内テント

川内原発再稼働に対して多くの人が反対の声をあげ続けていますが、九州電力はそれらを黙殺し、強行しました。九電は21日中に出力を30%まで上げ、段階的に出力を上げて、11月1日にフル稼働となる見通しを出しています。そして原子力規制委員会の最終的な検査をへて、同中旬に営業運転へ移る予定だそうです。

■ 1800人が反対集会

10月12日、鹿児島市のJR鹿児島中央駅前であった反対集会に

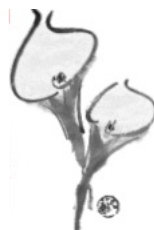
2015年10月23日

STOP原子力★関電包囲行動

毎週金曜日 午前11時から夜7時半くらいまで

ご都合のよい時間に来てね!

<http://stop-kanden.seesaa.net/>



関電は大飯・高浜再稼働をあきらめよ 福井地裁判決を受け入れよ

は九州各地の脱原発団体メンバーら約1800人（主催者発表）が参加。九州電力が、2009年に2号機の原子炉建屋内にある蒸気発生器を耐食性に優れたものに取り換えることを計画しながら、今回は実施せずに再稼働した点を「自殺行為」とするアピールを採択し、2号機の再稼働中止や1号機の停止を訴えて中心街をデモ行進しました。

また、11日から14日まで川内原発のゲート前でハンストがたたかわれました。

再稼働はされましたが本格的な営業運転はまだで、川内1号機で起きたトラブルが2号機で起こらないとは限りません。何しろ4年も停止していたのです。自動車だって乗らずに4年間停止していたら、何らかのトラブルは起きるのではないですか？ましてや原発においては。

福島事故後、被ばくで労災初の認定 白血病発症元作業員

【たんぽぽ舎メルマガから転載】

厚生労働省は10月20日、東京電力福島第一原発事故後の作業で被ばくした後に白血病になった元作業員に、労災保険を認定した。事故収束作業に伴う白血病の発症で労災が認められたのは初めて。

厚労省によると、労災が認められたのは発症時30代後半だった男性。建設会社の社員として2011年11月～13年12月、複数の原発で作業した。12年10月以降の1年1カ月間は福島第一を担当。原子炉建屋に覆いを造ったり、使用済みの防護服などを焼却する施設を建設した。

男性は13年12月に福島第一を去った後に体の不調を感じ、白血病と診断され労災申請した。現在は通院治療している。

白血病の労災が認められるには、年5ミリシーベルト以上を被ばくし、作業開始から発症まで1年以上あることが基準。男性の累積被ばく線量は19.8ミリシーベルトで、福島第一での線量は大半の15.7ミリシーベルトを占めた。

福島県の富岡労働基準監督署は、厚労省の専門家による検討会の見

関電は大飯・高浜再稼働をあきらめよ 福井地裁判決を受け入れよ

解を聴いた上で、福島第一での被ばくが白血病の大きな原因になった可能性がある判断した。男性には医療費や休業補償が支払われる。
(中略)

事故前に全国の原因で白血病や悪性リンパ腫などの労災を認められた作業員は13人。福島第一の収束作業で白血病も含むがんを発症したとする申請は8件。今回の男性を除く7件の内訳は3件が不支給、1件が取り下げ、3件が調査中。(10月21日東京新聞朝刊1面より抜粋)

癌死亡リスク原発作業員増加 被ばく100ミリシーベルト以下 でも…欧米30万人調査

【たんぼぼ舎メルマガから転載】

欧米の原子力施設で働く30万人以上を対象にした疫学調査で、100ミリシーベルト以下の被ばくでも線量に応じてがんによる死亡リスクが増えたとする分析結果を、国際チームが英医学誌BMJに発表した。国連科学委員会などは被ばく線量が100ミリシーベルトを超えると発がんリスクが高まるが、100ミリシーベルト以下では明確なリスク上昇を確認できないとの見解を示している。

チームは100ミリシーベルト以下でも白血病のリスクが上昇するという調査結果を既に発表しているが、今回新たに肺や胃、肝臓など白血病以外のがん全体でリスクの上昇を確認したという。

チームは英国、米国、フランスの原発や核燃料施設などで1944年～2005年の間に1年以上働いた約30万8千3百人のうち、白血病以外のがんで死亡した1万9千64人について被ばく線量との関係を分析。全作業員の積算線量は平均20.9ミリシーベルト相当だった。

分析の結果、被ばくがなくてもガンで死亡する可能性を1とした場合、1ミリシーベルトの被ばくごとに1万分の5程度死亡リスクが上昇すると推計され、上昇率は、これまで知られている高線量のデータと

関電は大飯・高浜再稼働をあきらめよ 福井地裁判決を受け入れよ

同程度だったという。1万9千64人のうちでは、209人が被ばくにより増えたガン死と推定されるとしている。（10月22日 東京新聞より）

もんじゅを廃炉にせよ！ 「点検漏れ 改善なく深刻」

（100ミリシーベルト以下でも危険ってことですね。安倍さん一編集者）

10月22日 の東京新聞によると、機器の点検漏れなどが相次いでいる高速増殖炉もんじゅ（福井県敦賀市）で改善がみられない場合、廃炉につながる設置許可取り消しも含めた何らかの措置を講じることを原子力規制委員会が決めたそうです。

避難計画がずさんでも再稼働を認める規制委員会がそのように言うてことは、よっぽどひどいってことでしょう。

もんじゅをめぐるっては、2012年暮れ、1万点近くの機器で定められた点検がなされていなかったことが発覚。原子力機構を所管する文部科学省は規制委に「最大限の対応をする」などと約束しましたが、その後も次々と不適切な事例が判明しました。

21日、規制委の定例会合に呼ばれた文科省研究開発局の田中正朗局長は「改善は着実に前進している」、「機構には研究成果が蓄積され、原子力政策の推進に大きく貢献してきた。もんじゅのような新しい炉の開発は電力会社より、機構が担うべきもの」と強調しました。

1995年の試験運転中にナトリウム漏れ火災事故を起こし、現在まで1ワットの電気も生み出さないもんじゅに、どんな研究成果があるのでしょか。

世界各国が開発から撤退した高速増殖炉。安倍政権は昨年4月に策定したエネルギー基本計画で存続させる方針を決めました。プルトニウムを生み出し、小型核兵器に最適の超高純度プルトニウムが製造できるもんじゅ。日本が武器輸出しようとしていることと無関係ではないと思います。

